

飛騨牛コロッケなど屋台が並び、来場者でにぎわう県農業フェスティバル＝岐阜市藪田南(撮影・坂井萌香)



28日に県庁一帯で開幕した4年ぶりの「第34回県農業フェスティバル」。2日間で約20万人の来場を見込む大祭典の会場には秋の味覚がずらりと並び、大勢の人たちの楽しそうな笑顔があふれた。

(古家政徳)

県農業フェス開幕

4年ぶり、あふれる“味力”

旬の野菜求めブースに行列

トマトや里芋などの販売に押し寄せる来場者＝同



開会の約1時間前から一部のブース前には行列ができ、来場者たちが待ちに待った様子。朝採れのダイコンを販売した農業関係者は「1人3、4本をまとめて買う人ばかり」と喜んだ。開会式は幼稚園児によるミニダンスなどが華やかに彩り、実行委員長を務め



開会式を盛り上げた幼稚園児たちのミニダンス＝岐阜市藪田南OKBぎふ清流アリーナ

る櫻井宏J A岐阜中央会代表理事会長は「岐阜県の農業が元気になるように支えてほしい」と呼びかけた。県庁20階の清流ロビーでは「ひだ・みのスイーツマルシェ」を初開催。県産花の装飾も置かれ、県都の眺望と併せて楽しめる。「フラワーフェスティバル」も

初めて開かれ、県産のシクラメンや葉ボタンなどが販売されている。また、農畜水産物を生産地で消費する「地産地消」の取り組みを応援する企画「ぎふ地産地消フェア」が

28日に始まり、県産食材が当たる抽選会などのオープニングイベントが行われている。11月12日までのフェア期間中にスーパーなど参加208店舗で県産農畜水産物を購入し、専用はがき

やSNSで応募すると、抽選で15人に3千円相当の県産農畜水産物加工品が贈られる。問い合わせはフェア事務局（岐阜新聞社営業局内）、電話058（264）1158。